

小樽商科大学ギャップイヤープログラムに対するメッセージ

(平成30年8月現在)

小樽商科大学の学生に感じる”逞しさ”のようなものは、地獄坂を毎日登ってるからという理由だけではないと思っていましたが、今回のプログラムを見て、やはりこういうことなんだと改めて感じます。このユニークな工夫によって、従来にも増して、グローバルとローカルの交叉が小樽の街で進むことでしょう。世界中のいかなるグローバル企業も、それぞれの地域においてはあくまでもローカルな存在を目指します。また、当社を例に挙げれば、世界中のお客様にお役に立つことを標榜しつつ、最大ミッションのひとつは日本の「地方創生」です。北海道の発展に貢献することです。今や、グローバルなビジネス感覚を持ってローカル経済の発展に寄与する力は、世界中で求められています。今回のプログラムによって、北海道からのグローバル人材輩出が一層強化されるであろうことをとても喜ばしく思いますし、大学としての飽くなきチャレンジに敬意を表します。

東京海上日動火災保険株式会社 北海道業務支援部長 西尾大樹 様

前向きな、期待感が高いです。観光産業に関する意味合いとしては、ハワイ大学は魅力的です。このプログラムから入学した後への接続も重視していただければと思います。欧米の企業と日本企業の意識の違いに気をつけていただければと考えます。語学や文化の勉強だけでなく、マーケティング、観光学、SNSの活用等の技術的な勉強もしてほしいです。留学中、遊んでしまうことがないような、フォローアップが必要と思います。また、北海道との連携企画も考えてみては如何でしょうか。

三井住友銀行 採用グループ ご担当者 様

留学前後に学習を行う本プログラムは非常に効果的な学習方法と感じます。学生時代に経験を通じ自らの知見を広げることは、今後に生きる非常に貴重な機会です。経験に勝る知識なしといわれますが、参加する学生の皆さんには、参加して終わりではなく、自分の価値観を変えられるよう主体的に取り組んでいただき、将来的には国や地域の発展に貢献できる人材に成長いただくことを期待します。

YKK AP株式会社 人事部人材開発グループ長 佐藤隆 様

プログラム自体につきまして、大変期待をしております。グローバルとローカルの両面の視点を持つ訓練としても非常に有効だと思いますし、貴校を挙げてのご支援となれば、非常に優秀な学生さんが応募されるのではないかと存じます。是非費用面で断念されていた学生さんも、こちらのプログラムを有効活用し、地元北海道の人財として活躍されて欲しいと考えております。

株式会社JTB札幌事務所 人事部人事チーム 中村遥 様